

関東の森林から



国民の森林・国有林

関東森林管理局

前橋市岩神町4-16-25
TEL.027-210-1158

<http://www.rinyamaffgo.jp/kanto/>



「天狗山」 (福島県白河市)

(撮影：関東森林管理局 福島森林管理署白河支署)

- ◎ 木材生産における取組 資源活用課・・・2
- ◎ ヘリコプターによる山地災害の調査 治山課・・・4
- ◎ 高尾の森から 高尾森林ふれあい推進センター・・・5
- ◎ 森づくり最前線
静岡森林管理署 千頭森林事務所、南千頭森林事務所
地域統括森林官 武居 邦広・・・7

木材生産における取組

森林整備部 資源活用課

【有利採材の徹底】

1本の立木の価値を最大限に高めるためには、需要者側でどのような長さや太さ(材種)を必要としているのか、どの程度の曲がりならば許容されるのか、最終製品は何かを把握しつつ、需要者側のニーズに応じた採材をすることが必要です。

1本の立木の価値は、どのような長さの丸太を何本採るのか(採材方法)により大きく差が生じることから、関東森林管理局管内において、有利採材の徹底に向け、



生産請負事業のオペレーター等を対象とした採材現地検討会を、今年度は11署等で開催しました。この現地検討会には、県・市町村の林業関係部局のほか、森林組合、国有林材の安定供給システム販売の協定者、原木市場などから多数の参加をいただき、複数の班に分かれて、腐れ・割れ・曲がりなどの欠点を確認し、丸太のサイズ毎の単価の違いも意識しながら、2m、3m、4m等の長さの丸太に切っていただきました。原木市場等の木材需用者からは

有利採材を徹底しよう！！ — 立木の価値を上げる採材の徹底 —

樹高:17m					比較合計			
胸高直径:24cm								
凡例: 基準価格(円/m ³) 単材積(m ³) 径級(cm)×長級(m)								
22×4	18×4	14×3	12×4	10×2低質				
9,800 × 0.194 1,901円	9,700 × 0.123 1,193円	6,400 × 0.059 378円	9,200 × 0.058 534円	× 0.03 90円	0.434m ³ 4,096円			
24×2低質	20×4	16×3	13×4	10×4				
3,000 × 0.12 345円	9,800 × 0.160 1,568円	9,700 × 0.08 747円	9,200 × 0.07 626円	4,800 × 0.03 144円	0.450m ³ 3,430円			
24×2低質	22×2低質	20×2低質	18×2低質	16×2低質	14×2低質	12×2低質	10×2低質	
× 0.12 345円	× 0.1 294円	× 0.08 240円	× 0.07 195円	× 0.05 153円	× 0.04 117円	× 0.03 90円	× 0.03 90円	0.508m ³ 1,524円
低質材N: 3,000円								

丸太のサイズ毎の需要動向や価格、通直材における曲がりの許容量などについて説明いただくとともに、活発な意見交換を行うことができ、有意義な検討会となりました。

【木材の需給・価格安定の仕組み】

林野庁では、地域の木材の価格や需給の動向を把握・分析し、国有林からの木材の供給量や供給時期の調整の必要性について検討するため、各森林管理局に国有林材供給調整検討委員会を、林野庁本庁に中央国有林材供給調整検討委員会を設置しています。

関東森林管理局では、学識経験者や関係事業者等の外部有識者で構成する「関東森林管理局国有林材供給調整検討委員会」を四半期に一度開催し、国有林材の供給調整の必要性について検討しています。

現在、国有林からの木材供給は、ほとんどが人工林の伐採木により行っており、関東森林管理局が管理する人工林の面積については、管内1都10県の民有林を含む人工林全体の21%に及んでいます。木



国有林材供給調整検討委員会

材価格の急激な上昇や下降が発生した際は、国有林材の供給の量や時期を調整することにより、国内の木材需給や価格への悪影響の緩和に努めることとしています。

今後、消費税率10%への引上げを見越した住宅等の駆け込み需要、2020年東京オリンピック・パラリンピック関係の特需的な需要の伸びなど、木材の需給バランスに変化が生じることも予想されます。国有林材供給調整検討委員会の議論を踏まえながら、木材を供



給し価格の安定に貢献していきたいと考えています。

【木材生産における生産性向上の取り組み】

関東森林管理局の各森林管理署等においては、林業の成長産業化に貢献する取組の一つとして、国有林が発注する素材生産請負事業の各事業地における木材生産性の向上に平成28年度から取り組んでいます。

具体的には、立木の伐倒から、



木寄せ、造材、集運材までの生産性（作業者一人の一日当たりの作業量）の目標を設定します。また、作業工程毎の作業量を記録する作業日報を作成することにより、工程毎の生産性を把握・分析し、これを短期間で繰り返すことにより、ボトルネックとなっている工程の問題を解消しシステム全体の改善を図っていくものです。

素材生産請負事業の実施期間中に、地域の林業関係者（県、市の研究機関、市町村、近隣の林業事



業体）にも参加していただき、現地検討会を開催し、ボトルネックの改善方法、生産現場の創意工夫について情報共有を行うなど、地域全体で生産性向上に取り組んでいます。

この取組を通じて木材生産の収益性が改善することにより、意欲と能力のある林業経営体の育成や林業労働者の処遇改善、地域の林業の活性化にもつながるものと期待されることから、今後とも継続して取り組んでいきます。

ヘリコプターによる 山地災害の調査 計画保全部 治山課



ヘリコプターで調査へ向かう

関東森林管理局では、大規模な山地災害等があった場合には、ヘリコプターにより調査を実施しています。台風通過後等に土砂崩れ等の山地災害が確認された場合には、被災箇所を調査するとともに他に被害が無いか広範囲に状況を確認する必要があります。しかし、林道等も倒木や落石等により不通となり、地上からでは容易に近づけない場所、見通しの利かない場所等もあります。住宅地や公共施設に対して被害を与えるような土砂崩れ等の山地災害が発生しているか否かを早急に、広



土石流等の発生源や流下したコース
浸食の状況（上空より）

範囲に確認するためには、ヘリコプターによる調査が有効です。当局では、年間を通じて民間の航空会社とヘリコプターの飛行契約をしており、必要なときに必要なだけ飛行することができるようになっています。平成30年3月5日には、大雨により、富士山東側斜面から土砂の流出があり、下流部で被害が発生したとの情報を受け、国有林野職員の他に森林総合研究所職員と静岡大学教授及び地元小山町職員が同乗して調査を行いました。



土砂崩れにより路体が崩落、徒歩での調査

明確に確認できません。今回の発生源の渓谷上部では、降雨や融雪水による土砂移動があったと思われるが、溪畔林はしっかり残っていたので、崩壊地の発生は無かったと判断することができました。これは、溪畔林により土砂の動きが制御された可能性が考えられます。また、溪流の上方や周辺の山腹斜面等に崩壊地等はないことが判明したので、地上からの詳細な調査は本溪流のみで十分と判断できました。後日、対策のための検討委員会を立ち上げた際、調査に参加した学識経験者等に委員として出席を求め、発生原因と必要な対策の考え方や具体的な対策について、アドバイスをいただいたながら検討し、計画に



風雨による倒木、林道をふさぐ

反映させることができました。現在、早期に復旧するために治山工事を行っています。山地災害は国有林だけで発生しているとは限らず、民有林も含んだ山間部で発生します。このようなときは、国有林野職員だけでなく、都県や市町村の職員等にも同乗していただき、被災状況等の情報を共有し、地域の方々への情報提供につなげるとともに、連携して対策にあたるなどしています。地域の皆様が安全で安心して暮らせる環境を守るために、ヘリコプターによる調査等も活用しながら、被災箇所について一日も早く復旧することとはもとより、山地災害による被害防止の対策に努めていきます。



高尾森林ふれあい推進センターでは、様々なイベントを行っています。今回は秋から冬にかけて行った活動を紹介します。

【森林カレッジⅢ・Ⅳ】

① 10月13日(土)に3回目の森林カレッジを実施しました。講師は、元多摩森林科学園園長である三輪雄四郎先生による「木の成長のしくみ」の講義です。「肥大成長と伸長成長」等の説明と水槽を使っての実演もあり非常に分かりやすく解説していただきました。

午後からは、ノコギリを使つての間伐作業です。現場は足場が悪く急傾斜地での作業でしたが、受講生全員が伐倒、枝払い、玉切り、林道までの丸太の搬出を体験することができました。

講義と実習を通じて、「成長のメカニズムがわかった」「受け口を斜めに伐るのが非常に力が入って難しかった」等の意見が出されました。

② 1月19日(土)、最終4回目の森林カレッジを実施しました。開会式の後に早速、炭焼き体験の開始で



玉切った丸太を林道まで搬出する様子



ノコギリを使つての間伐作業体験



炭焼き体験

す。ドラム缶窯2、伏せ焼き窯1の3班に分かれての実施で、窯の焚き口にウチワを使つて風を送り込みます。はじめは白くて濃い煙ですが窯の中の温度が上昇するにつれて、煙の色が徐々に薄くなつていきます。午後からは、東京大学名誉教授の谷田貝光克先生による「森の恵みと共に炭焼き、そして森林の香り」の講義です。「炭の構造」「快適な環境づくり」に役立つ森の香り」などを解説していただきました。今まで4回の森林カレッジをとおして受講した皆さんが、この経験を生かして次のステップへと進んでいただきたいと思います。

【7月～1月までに実施したイベント】

① 森林教室

- 墨田区両国幼稚園…58名
- 江東区さんいく保育園…13名
- 三鷹市…13名
- 川越市…10名
- 横浜市立美しが丘小学校5年生…70名

- 東京都立石神井特別支援学校中学1年生…29名

- 八王子市立片倉台小学校5年生…45名

- 八王子市立七国小学校5年生…152名

- 武蔵村山市立第三小学校3年生…87名

- 横浜市立榎が丘小学校4年生…106名

- 横浜市立下田小学校4年生…137名

- 大和市立北大和小学校1～6年生…49名

- 八王子市立上柚木小学校5年生…49名

② 体験林業

- 拓殖大学・環境政策ゼミ…12名
- 東京都立石神井特別支援学校教員研修…1名

③ 職場体験

- 八王子市立恩方中学校2年生…3名

④ 炭焼き体験

- …3名



ツルを選び編み上げ開始

横滨市立谷本小学校5年生・67名
 ⑤公募イベント「つるかご編み」
 11月10日(土)、高尾森林ふれあい推進センターにおいて実施しました。定員20名に対して、89名の応募があった大人気の公募イベントです。庁舎前に山積みされているツルの中から各自で選び出し編み始めです。最初は苦勞していたものの、職員からのアドバイスを参考にしながら皆さん順調に編み上げていきます。
 作成時間終了後は、参加者20名一人一人から、作品についての思いや作成にあたっての感想を述べていただきました。
 「果物を入れるかごが欲しかった。」
 「ちょうど良いサイズのかごができてうれしい。」等の声が聞かれ、皆



完成した作品



真剣に作成している様子

さん満足されていました。また、作成途中のかごと余ったつるを持って帰る人がたくさんいました。

きのこ特集

一夜かぎりのヒトヨタケ

ヒトヨタケ(毒)

(ナヨタケ科ヒトヨタケ属)

6月上旬から11月中旬に道端や草地などの枯木が埋もれている所に群生しています。

カサは初め釣鐘型で後に平らに開きます。3cmから7cmで表面は淡灰褐色から淡褐色で細かいササクレがあり、柄は白色で4cmから9cmで上部に不明瞭なツバ(内被膜)があります。

ヒタは初め白色後黒色になり、直生します。

和名ヒトヨタケは名前のとおり一夜で溶けてなくなる所から付けられました。



非常に美味しいきのこですが、体内にアルコールがある状態で食べると、きのこ成分にコプリンがあることで、コプリンがアルコールと結び付くと毒成分となり、酷い二日酔いのような症状の中毒を起こします。

今月の表紙

「日本一遅い山開き 天狗山」

(福島県白河市)

白河市表郷番沢国有林にある天狗山(標高626m)は、平成20年に「ふれあいの森」を設定し、地域の有志で組織された「おもてごう里山クラブ」が中心に四季折々の活動を行っています。春にはカタクリの花等が見られ「花まつり」、夏には10歳の子供を対象とした「二分の一人式」、秋には「日本一遅い山開き」等行っています。昨年の山開き(毎年11月23日)は、天候に恵まれたこともあり約80名の参加がありました。



森づくり最前線

静岡森林管理署

千頭森林事務所

南千頭森林事務所 地域統括森林官 武居 邦広

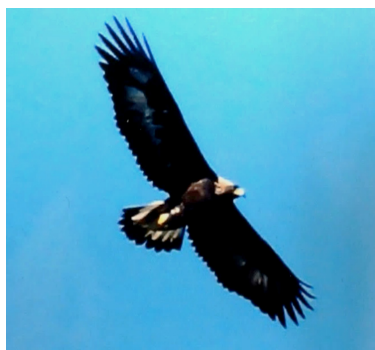


光岳とハイマツ林

千頭森林事務所、南千頭森林事務所は静岡県川根本町に合同事務所を設置し、南アルプス南端部で長野・静岡県境に位置する光岳（てかりだけ・標高2,959m）など大井川源流部に広がる千頭国有林（約264百ha）のほか、大井川中流域の島田市にある大代国有林（約9百ha）などを管轄しています。

光岳一帯の国有林は南アルプス南部光岳森林生態系保護地域であり、本州で唯一の大井川源流部原生自然環境保全地域のほか、ユネスコの南アルプスエコパークにも登録されるなど、荘厳な天然林が手つかずで残っています。森林分布も変化に富み、冷温帯にはブナやモミ・ツガ、亜高山帯にはシラベ・トウヒ（県境稜線部にはアオモリトド

光岳は日本百名山の一つですが、百名山の中で最もアクセスが大変な山と言われており、この地域へ行くには静岡市井川地区から南アルプス茶臼岳経由で往復4日、長野県側からも往復2日かかり、到達難易度が非常に高いところです。また、千頭国有林には「日本美しの森お薦め国有林」に選定された飛竜橋自然観察教育林と千石平風致探勝林があり、眺望に配慮した伐採を行うなど来訪者に森林浴を



イヌワシ若鳥

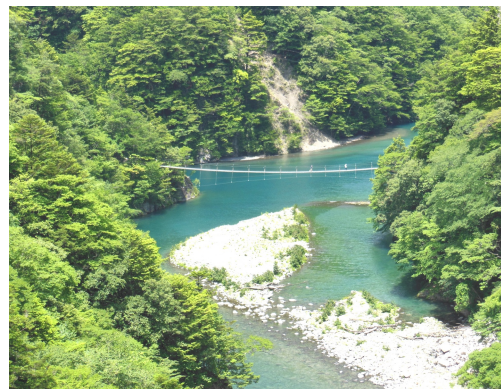
(生息状況調査報告書より)

マツも見られます）、高山帯にはハイマツ群生地があり、ハイマツ群落の南限とされています。当地域はライチョウ生息域の南限でもあり、運が良ければ国有林内のハイマツ帯で出会えるかも知れません（私はまだ見たことがありませんが・・・）。イヌワシが飛来してくることもあり、希少猛禽類の観察も森林官の業務として行っています。

また、国有林を取り囲む民有林も生育・形質に優れる人工林が広がっていますが、急峻で県道等から民有林に通じる林道等がありません。このことから民有林の森林経営計画を策定している事業体に対し、国有林林道を利用していただくなど民国連

楽しんでもらえるよう取り組んでいます。

一方、管轄区域内での人工林施設は千頭地域の一部のほか、島田市に位置する大代国有林を中心に実施しています。当地域は都市近郊林でアクセスも良く、生育・形質に優れたヒノキが多いことから循環型施設の適地として、主伐、間伐、更新、保育作業を実施しています。今年度は効率的な森林整備に向けて林道も新たに開設しています。



飛竜橋自然観察教育林



マンサワ(満作)

樹高2~10m. 早春に先咲くがなまここの名が来た。リボン状の花弁は、くらくら色がかって綺麗に咲いている。

携の取組を進めています。

静岡森林計画区は平成32年度に第6次計画の始期を迎えることから、次期計画の伐採箇所の選定・踏査等も日々行っているところです。当地域には、貴重な自然、レクリエーションの森、人工林と多様な森林があることから、関係者の皆様と協力してよりよい計画を策定できるようにしていきたいと思えます。



立木を丸太へ(大代国有林:立木販売箇所)

